

(別紙様式2-2)

道徳教育地域支援委託事業実施報告書（平成29年度）

1 学校の概要

(1) 学校名 観音寺市立豊浜小学校

(2) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援 学級	児童生徒数 計	教員
2学級 55名	2学級 60名	2学級 58名	2学級 57名	2学級 62名	2学級 53名	2学級 7名	352名	21名

2 研究主題等

(1) 研究主題

「自己を見つめ、よりよい生き方をともに求める道徳」
～自ら問いかけ、考え、対話を深め心に響く道徳学習の創造～

(2) 研究主題設定の理由

本校の教育目標は、「進んでチャレンジする豊浜っ子」の育成である。進んでチャレンジする子とは、社会、様々な自然事象などに対して、主体的に働きかけ、よりよい関係をつくりながら、自らを高めようとする子どもと考える。このような児童の育成は、学校の全教育活動の中で進めていくが、それを支える基盤は確かな学力と豊かな心である。その両者が、相互に連携を強め、支え合うことで、学習した内容が、単なる知識・理解にとどまらず、児童の生活の中で活用できる「生きて働く力」となると考える。

本校の児童は、明るく素直で、与えられた課題にはまじめに取り組むが、その一方で、進んで人とかかわること、人の立場に立つこと、夢や目標をもち自らを律し努力していくことには消極的な面がうかがえる。さらに、一町一幼稚園・小・中学校という、やや固定化された人間関係の中でお互いを思いやる心に欠ける部分がある。このような児童に対して、社会を構成する一員として、進んで役割を自覚し、思いやりを持って生活していくための道徳的価値を理解し、実践力を育てることは、必要不可欠であると考え、テーマを設定した。

(3) 研究内容及び方法

- ① 道徳を要とした教育活動計画の作成 ー改訂の趣旨に即してー
 - ア 道徳教育全体計画と各学年の道徳の授業の年間計画の見直し
- ② 特別の教科道徳の授業実践交流の充実を通して
 - ア モデルとなる学習過程と効果的指導・支援法
 - イ 道徳ノートの作成
 - ウ 新たな試み「評価」方法の模索
- ② 各教科における、よりよい生き方に向かう日々の授業の充実について
 - ア 別業の策定
 - イ 重点内容を加味した、教科授業の実践
- ③ 道徳教育の充実を支援する特色ある活動の充実
 - ア 学・家・地域連携の視点から
 - イ 重点に照らし合わせた活動内容の点検と実践

3 研究実践

(1) 道徳を要とした教育活動計画の作成 ー改訂の趣旨に即してー

① 道徳教育全体計画と各学年の道徳の授業の年間計画の見直し

全校における重点項目、各学年における重点項目を焦点化することで、学校教育目標をもとに道徳教育目標を明らかにし、それぞれのめざす子どもの姿を明確にした。

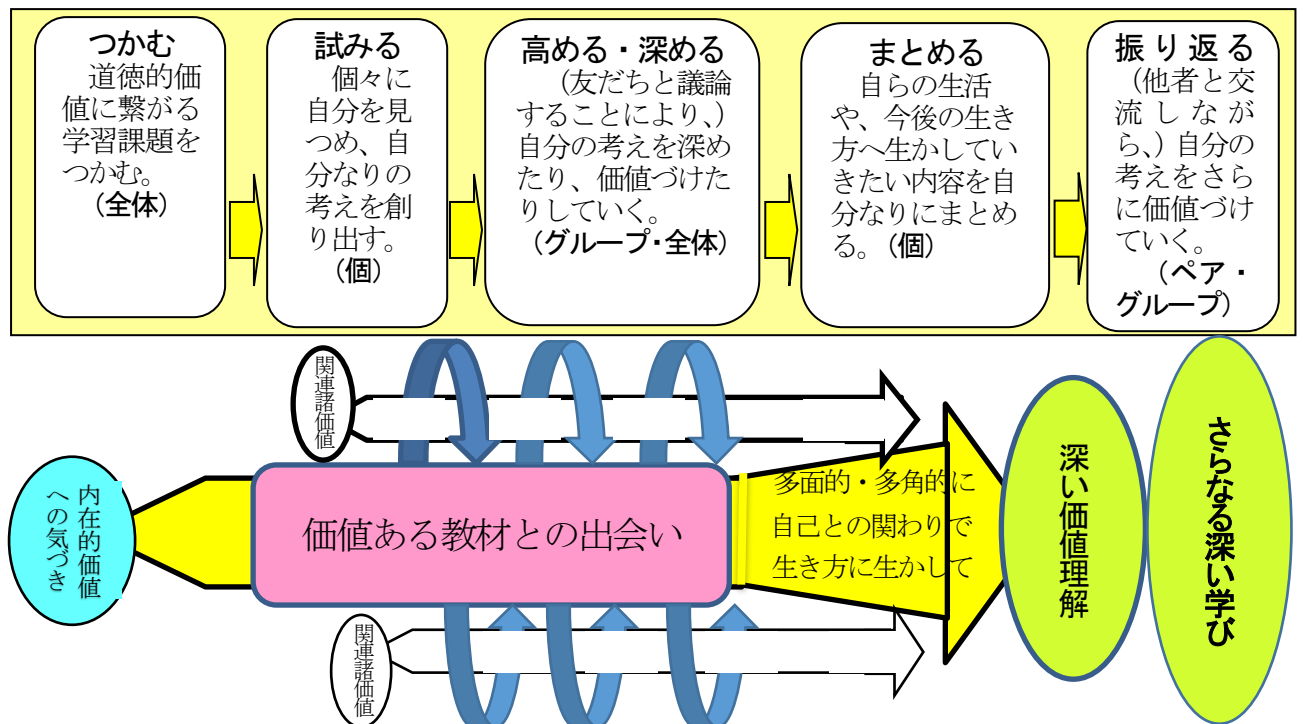
さらに、新学習指導要領の改定の主旨と照らし合わせ、道徳の時間の指導方針や推進体制をどのように進めていくのかを検討し、校内の日常活動を整理したり、価値ある体験活動とのつながりを確認したりした。

また、各学年の年間計画の作成に当たっては、新学習指導要領に即した、道徳科の学習としての授業計画となること、さらに、道徳科が道徳教育の要となるように、総合的な学習、学活、行事活動など、価値ある体験活動との関連を図りながら指導に当たれるようにすること、また、重点内容項目の効果的指導を意識した指導の時期や機会を見直すこと、などを注意点とした。

(2) 特別の教科道徳の授業実践交流の充実を通して

① モデルとなる学習過程と効果的指導・支援法

道徳科の時間が道徳教育全体の要として機能するためには、児童自身が幸福な社会をつくったり、よりよい人生を送ったりするためには何が必要かを児童が主体的に考え、その答えを導いていく授業展開が必要である。そのためには、資料内容から、児童自身が道徳的価値に迫る「なぜ」を見だし、その問いに対して考え、議論していく必要があると考える。さらには、その授業モデルが、道徳のみならず全ての教科の授業にも活用されることで、道徳の授業を要として、教育活動全体で道徳性を育成することに繋がると考えられる。そこで、これまで算数科において研究を進めてきた、探究学習過程（つかむ、試みる、高める・深める、振り返る）に沿った学習展開をもとに、道徳性を養う授業展開法を仕組み、道徳科の目標の達成に向けて、具体的取り組みを行った。授業では、「つかむ、深める・議論する・振り返る」場を意識してそれらが連動させながら、自己の生き方につないだり、多面的多角的に考えたりできるよう具体的手だてを用いながら実践を行った。

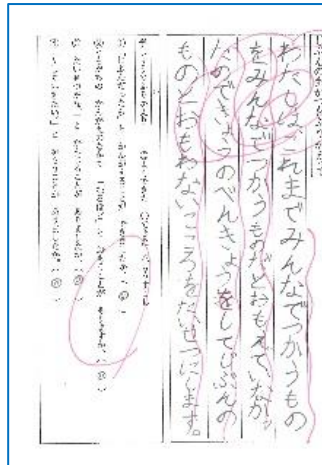


【豊浜小学校の道徳科学習の基本モデル】

【具体的授業実践内容】

自己の生き方につなぐ

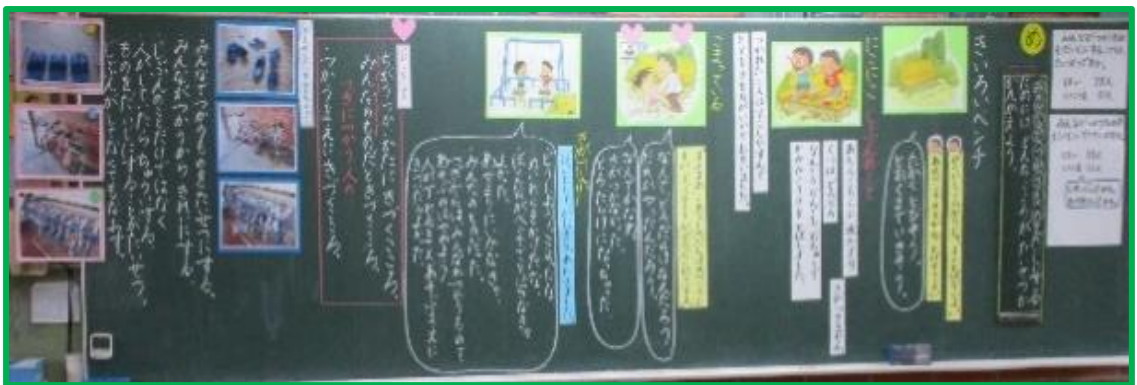
第1学年「きいろいペンチ」
中心内容 題 〔規則の尊重〕



【本時につながる児童の実態を示し関連づける指導】

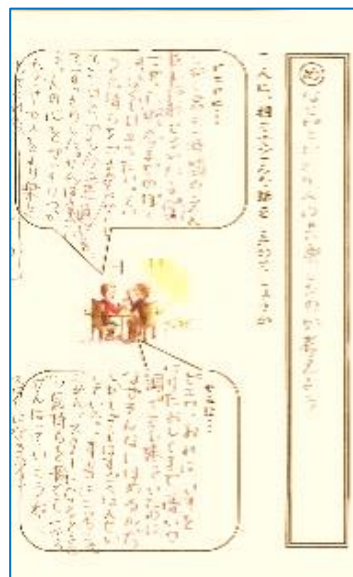
事前アンケートの内容を提示し、自分自身の課題や現状を把握させることで、学習課題につないだ。

ふり返り場面では、具体的な生活の課題と結ぶことで、より自分自身のこととして捉えられるようになった。



多面的・多角的に考える

第5学年「ブランコ乗りとピエロ」
中心内容 題 〔相互理解、寛容〕



【役割演技により、多面的・多角的に考えさせる指導】

教材の場面をもとに、様々な立場に立ち、自分だったらと考えることで、多面的・多角的に物事をとらえられるようにした。様々な人の思いに気づき、活発な対話につながった。




【本年度取り組んだ指導法の工夫】

- 比較・関連づけられる板書
- 教材提示法の工夫
- 役割演技
- 心情円盤
- イメージマップ

② 思考力・表現力を伸ばし、議論を喚起する話型の活用

(異同) ぼくは、… わたしも、…	(確認) …ということですか。
(復唱) もう一度言います。 ○○さんが言ったのは、…	…といったと思うけれど、そうですか。 共通点は…と思うけれど、 これでいいですか。
(質問) 質問があります。	相違点は…
(確認) …ですね。	(例示) 例えば、… わたしだったら…
(逆説) でも、… だけど、…	(結論) だから、… それで、…
(並列) それと、…	(仮定) もし、… それなら、…
(添加) それに、…	(変換) 言いかえると、…
(理由) そのわけは、… なぜかという、…	(簡潔) 簡単に言うと、… つまり、…
	(同化) わたしだったら…

③ 道徳科の価値にせまる話型の活用

 どうとくのことば	
こんなときに	こんな ことばをつかって
じぶんとつなぐ	★おなじようなことがあります。 ★ぼくだったら (わたしだったら)
いろんな みかたで かんがえる	★もし ~ だったら ★○○さんのかんがえを きいて
じぶんにいかす	★はじめは～だったけれど ★じゅぎょうをして ★これからは

 道徳の言葉	
こんな時に	こんな言葉を使って
わたしとつなぐ	☆ ○○な経験から、～と感じました。 ☆ 例えば、わたしだったら…
いろんな見方で考える	☆ 別の見方をすると・・・ ☆ 立場を変えて考えてみると・・・
わたしに生かす	☆ これからわたしは、・・・ ☆ 今まで (最初は) ○○だったけれど、 これからは (授業を通して)、

【道徳科の学習の深まりにつながる話型例】

従来本校が取り組んでいた、全教科学習において、思考力を伸ばし議論を喚起する話型を基に、児童自らが道徳科の学習を多面的・多角的に考えたり、自己との関わりを通して生き方につなごうとしたりすることで、より道徳性を深めていけるよう、話型を整理し、各学年の児童の実態に応じて設定し活用を試みている。

④ 道徳科授業計画シートの開発・活用

教材分析シート ()年

主題名	
資料名	
主人公	
中心価値	
関連価値	

【主な場面・状況】	【主人公の心の動き】	【価値との関係】	【主な発問】

【教材分析シート】

授業づくりシート

・主人公

・中心場面
(主人公が価値を自覚する場面、道徳的価値の変化が起こる場面、葛藤場面、道徳的判断をする場面)

・中心発問 (内面的資質を育てるために、一審価値に沿っていくための発問)

・予想される児童の反応 (異なる立場から)

・深めるための支援・学習方法

・本時のねらい
(教材の活用部分や活用方法を簡潔に) ~について考えさせる、~について気づかせる

を通して、

(内容項目より) とする

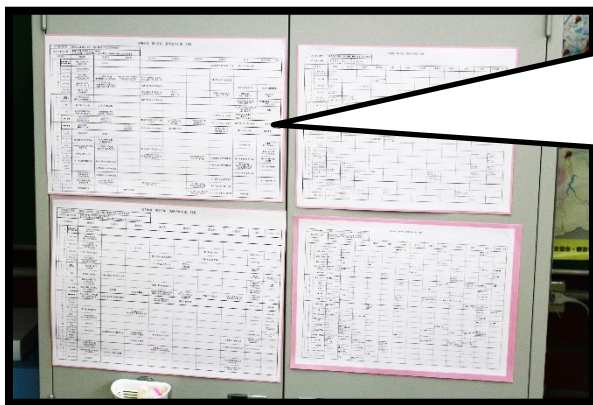
(道徳的実践力の中で、主なものを入れる) を育てる。

【授業作りシート】

全教職員が、道徳科の授業実践を効果的に行っていけるよう、資料分析方法例を開発し、それぞれの実態に応じて活用を行った。

(4) 各教科における、よりよい生き方に向かう日々の授業の充実について

① 別葉の策定



【職員室後ろ・各学年別葉掲示】

全校重点目標	相手のことを考え、やさしく話し、親切にすることができる子	
低学年重点目標	約束やまわりを守ることができる子 よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う	
内容項目	道徳科	国語科
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	ほんたとかんた ほくのどき	スイミー
	中にわのかだん かじだかじだ	
	ひとりでできるよ るってどしどし がよひんめいよふふ まはちえのて	サツダでけんさ 南がぬけたらどうするの
	おんな・おとこ ふたごのこ	わたしのほっけん 「ずきなもの多しよ」

【1学年別葉】

道徳科の目標達成に向けて、他教科との関連を内容項目ごとに整理し、職員室後ろに各学年ごとに掲示することで、教職員全体で共通理解を図りながら、常に指導の点検・改善に取り組んでいる。

② 重点内容を加味した、教科授業の実践

別葉を作成し、他教科でも道德教育を意識した指導を行うことで、道德教育の目標達成に向けて道德科の授業を要とした指導がなされるようにしている。



【郷土を愛する心を意識した音楽の授業実践】

(5) 道德教育の充実を支援する特色ある活動の充実

① 学・家・地域連携の視点から

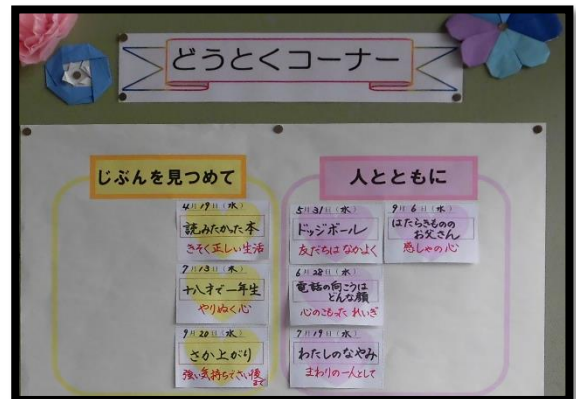
ア 道德便りの発行 (道德の日の取り組みなどの発信)



【全校道德・道德タイムの様子を発信する道德便り】

イ 道德の広場 (道德の学習で学んだこと感じたことを掲示)

道德教育に関わる指導内容について、児童とともにふり返ったり、生活の中に関連づけたりしやすくするよう、学習の足あととして、全学級教室掲示を行っている。



【道德コーナー掲示】

② 重点に照らし合わせた活動内容の点検と実践

ア 異学年とのペア活動

- ・ペア読書
- ・ペアボランティア
- ・ペア大縄跳び

イ よいところ見つけ

- ・全校朝会での紹介

ウ 学校の宝づくり運動の充実した展開

- ・運動タイムの充実

エ 道徳タイムの運用 (全校道徳、全校大縄跳び、ペア学年遊びソーシャルスキルトレーニング等の導入)

- ・バースデーライン
- ・人間知恵の輪



【ペアボランティア】



【異学年ペアでのチャレンジ運動】



【児童会によるいいところ発表】



【バースデーグループ作り】

(6) 特別の教科道徳の時間の評価について

① 評価に繋がる道徳ノートの作成

〔評価項目〕

- ① 自分のこととして、考えることができましたか。
- ② 友だちの考え方と比べて、聞くことができましたか。
- ③ 「大切だ」と感じるがありましたか。
- ④ 「～していきたい」と思うことができましたか。

* 以上のような、4つの項目で児童に自己評価させるとともに、ふり返りの観点の手がかりとなるように活用をしていく。

* 学年の発達段階にあわせて、書き出しの言葉を具体的に示したり、ふり返りの項目を絞ったりしながら、徐々に広げていけるように工夫する。

【道徳科のワークシート】

② 新たな試み「評価」方法の模索

評価の観点と、みとり内容を整理しやすくした評価補助簿の形式を作成し、それぞれの学級でのふり返りとして評価を残し、積み上げていくことで、次年度から始まる評価内容の研修を行っている。

平成29年度 年 組 道徳科 評価補助簿				
月	日	内容項目 ()	資料名 ()	
1		自己との関わり	多面的・多角的	自己の生き方
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				

〈評価の3観点〉

- ・ 自己との関わりで考えよう
とできたか。
- ・ 多面的・多角的に考えよう
とできたか。
- ・ 自己の生き方に生かそうと
できたか。

〈児童の具体的様子〉

- ・ ワークシート等に表現され
た内容
- ・ 授業中の発言や行動の中か
らの教師のみとり内容

4 研究の成果と課題

児童の実態調査から、「困っている人がいたら進んで助けている」という問いに対して、積極的に行っているとした児童が増加してきました。また、それにともなって、「道徳の授業が好き」という児童の割合も増加した。

さらには、自尊感情を表す値も全校的に高く推移してきた。

ささやかな成果であるが、今後継続していく事がさらなる道徳教育の深まりにつながるものと考えられる。

また、全教職員が道徳科の授業を大切に実践し、道徳科の授業を要とした全教育活動を意図的に行ったことで、実践の積み重ねが具体物として残ったことも、次年度以降の道徳科の完全実施に向けて大きな財産となっている。

ただ課題として、児童の積極的な学びへの意欲喚起に向かう評価の仕方について、まだまだ十分な研究結果となっていない。今後、今年度積み上げてきたデータを基に、評価の具体的内容についてさらに研究を深めていきたい。

平成29年度香川県学習状況調査 質問し調査結果より

